2019年度
自己点検評価報告書

学校法人　日産学園
日産栃木自動車大学校

目　　次

基準1　教育理念・目的・育成人材像等

【1】 理念・目的・育成人材像
1-1　理念・目的・育成人材像は定められているか

【2】 学校の特色
1-2　育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか

【3】 学校の将来構想
1-3　社会のニーズを踏まえた将来構想を描いているか

基準2　学校運営

【1】 運営方針・事業計画
2-1　理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか

【2】 運営組織
2-2　設置法人は、組織運営を適切に行っているか

【3】 人事・給与制度
2-3　人事・給与に関する制度を整備しているか

基準3　教育活動

【1】 目標の設定
3-1　理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか

【2】 教育方法・評価等
3-2　教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか

【3】 成績評価・単位認定等
3-3　成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか

【4】 資格・免許の取得の指導体制
3-4　目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか

【5】 教員・教員組織
3-5　資格・要件を備えた教員を確保しているか

基準4　学修成果

【1】 就職率
4-1　就職率の向上が図られているか

【2】 資格・免許の取得率
4-2　資格・免許取得率の向上が図られているか

【3】 卒業生の社会的評価
4-3　卒業生の社会的評価を把握しているか

【4】 資格・免許の取得の指導体制
3-4　目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか

基準5　学生支援

【1】 就職等進路
5-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか

【2】 中途退学への対応
5-2 退学率の低減が図られているか

【3】 学生相談
5-3 学生相談に対する体制は整備されているか

【4】 学生生活
5-4 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか

【5】 保護者との連携
5-5 保護者との連携体制を構築しているか

【6】 卒業生・社会人
5-6 卒業生への支援体制を構築しているか

基準6 教育環境

【1】 施設・設備等
6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか

【2】 学外実習等
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか

【3】 防災・安全管理
6-3 防災に対する組織体制はを整備し適切に運用しているか

基準7 学生の募集と受入

【1】 学生募集活動
7-1 学生募集を適正、かつ効果的に行っているか

【2】 入学選考
7-2 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか

【3】 学納金
7-3 経費内容に対応し、学納金を策定しているか

基準8 財務

【1】 財務基盤
8-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか

【2】 予算・収支計画
8-2 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか

【3】 監査
8-3 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を行っているか

【4】 財務情報の公開
8-4 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか

基準9 法令等の遵守

【1】 関係法令、設置基準等の遵守
9-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っているか

【2】 職業実践専門課程認定要件
9-2 職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか

【3】 個人情報保護
9-3 学校が保有する個人情報に関する対策を実施しているか

【4】 学生評価
9-4 自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか

【5】 教育情報の公開
9-5 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか

基準10 社会貢献・地域貢献

【1】 社会貢献・地域貢献
10-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

【2】 ボランティア活動
10-2 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか

基準11 国際交流

【1】 国際交流
11-1 国際交流活動を行っているか。

2020年　6月16日

◆栃木校　自己点検評価　報告書（2019年度活動評価）

日産栃木自動車大学校

※評価凡例　：4．適切　3．ほぼ適切　2．やや不適切　1．不適切　NA　当てはまらない

基準1　教育理念・目的・育成人材像等

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか。	3	・理念・目的・育成人材像は、当校の「教育理念」及び「教育方針」の形で、明確に定められている ・この教育理念・教育方針に則り、中期・年度の活動方針に「自主性、主体性」を掲げ、活動している。 ・19年度は、あるべき学生像と、自主性・主体性の関係の再認識を全教員で行いつつ、いくつかの実活動も実施してきた。	これまでの学生の「自主性、主体性」の育成向上活動には必ずしも十分な達成感を感じられていない。 20年度は、改めて、学年毎に施策と目標を決めて成果を実感できる活動にしていく。	a．ホームページ （学長メッセージ、教育理念）

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか。	3	自動車業界は、100年に一度の技術革新を迎えており、「特定整備」の法制化に代表されるように、高度整備技術の保有者を強く求めている。 「時代をリードする技術力」と教育方針にも謳い、自動車メーカーの整備士養成部門とも連携する中で、必要な技術養成のカリキュラムは盛り込んでいる。	自動車整備科、一級自動車工学科、夫々のレベルに応じて、「特定整備」に代表されるような新技術対応のカリキュラムの取り込みを、20年に準備、21年度に実施予定。 ［エーミング等］	a．ホームページ （学長メッセージ、教育理念） b。販社アンケート c、教育編成委員会議事録

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料
1-3 社会のニーズを踏まえた将来構想を描いているか。	3	①整備士需要は高く、日本人の入学希望者は減少の一途と言う中、より多くの多様な学生を受け入れ、一定のレベルにまで育成していかなくてはならない環境下にある。 従来以上に労力を費やし変わらぬ成果を求めているが、新しい学生層に応じたスキームを見出す必要がある。 ②日本の不足に応える留学生の受け入れ増を表明し、18年度7名、19年度25名の入学と増員は達成できてきたが、2年での育成には日本語を中心とした課題が大きくのしかかっている。	⇒①日本人の多様化 　個々の学生のフォローを充実させ、卒業までの育成を完遂できるようにしていく。 ⇒②留学生の増員 　FY20までは従来の2年制の中での対応をするが、21年からは、国際自動車整備科（3年制）を立ち上げ、より長いスパンの中で、自動車に関する語学力の育成を軸に増員への対応を図る。	a．中期計画（2018～2022年） b．FY19活動実績 c.FY20活動計画

基準2　学校運営

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-1 理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか。	3	・理念、教育方針のもとに、中期、年度の計画・方針を明確に定め、展開している。	目標に対する施策が、十分であるか、走りながら確認をしていく。	※以下は、1-3の資料と同じ a. 中期計画（2018～2022年） b. FY19活動実績 c。FY20活動計画

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-2 設置法人は、組織運営を適切に行っているか。	4	学校法人及び日産・自動車大学校（※1）としては、【決定基準】がその意思決定の権限基準を決めており、学校としては、組織図が各権限基準を示している。また、各教職員の職務については、業務分担表が示しており、基本的な運用は確立している。しかし、逆境の中で先に進むためには、更に校内の信頼・協力・論議を活性化する必要がある。	20年度は、校内組織の変化も大きいが、それを機に、校内のコミュニケーションの取り方、課題の取り上げや対策の検討などの進め方、等、仕組み的な改善を検討しつつ、実行につなげていく。	a.組織図（日産自動車大学校） b.組織図（日産栃木自動車大学校） c.決定基準(日産自動車大学校） d.決定基準（日産学園）

※日産・自動車大学校～日産学園3校・日産横浜自動車大学校（日産自動車立）・日産愛媛自動車大学校（愛爾学園）の5校が教育・募集・就職などの協業の為に組んだアライアンスの名称。

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-3 人事・給与に関する制度を整備しているか。	3	人事・給与制度は整っており、各人の給与は、コンピテンシーを軸にした評価制度により、決定している。昨今、評価制度の運用上の課題も見えてきており、運用も含めて、制度改善の検討を進めていくひつようがある。	上司の評価のみならず、部下の自己評価も盛り込んだ制度を志向すると同時に、日常的に上下の認識をあわせていくような運用を目指したい。	・就業規則

基準3　教育活動

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3－1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	3	理念、教育方針に沿って教育課程の編成・実施方針を策定することを基本としている。FY18より、新中計の中で、重点方針「自主性・主体性の育成」を掲げ、整理した3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）の実現に向けた活動を展開してきた。	学生の自主性、主体性を促進する活動を18年度から継続して実施した。結果として自主性の基本である遅刻、欠席について改善に至らなかった。しかしながら自車両の整備を通し、授業で学んだことを習熟する行動も多くみられ主体的な活動は促進できた。20年度は、19年度から継続すべき内容を教員全員で精査し、更なる自主性、主体性を促進する活動に臨むこととした。	a.FY19年度教育部活動計画振返り b.FY20年度教育部活動計画

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-2 教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか。	3	[整備科・一級自動車工学科]学科、実習共に、学生が修業年限で到達レベルに達する為に理解しやすいよう、教える順番を綿密に検討し、体系化されたカリキュラムを日産5校の標準とし保有(学科を学びの樹、実習は実習スタンダードと呼称) 実際使用するカリキュラムは栃木校の教務、教科リーダーが各校の事情に合わせ一定の範囲内でカスタマイズ。 教科書改訂や企業のニーズなどを定期的にチェックし、毎年、次年度に向けて、改定すべき点を確認し、織り込んでいる。毎年、日産5校でカリキュラム改善の検討を行い、幅広く見直しを行っている。 [整備科・スポーツメカニクス科] スポーツメカニクス3学年目においては、レース車両のメンテナンスおよび整備(レースでは一般車両の走行負荷数年分が発生するので効率よく整備体験ができる)を体験し、2年目までに学んだ整備技術を更に向上させることを目指している。	教育課程は、技術的はメーカーの技術標準に準拠したもので、十分妥当性があるが、学校でこそ行える、より基礎研究的な教育、更に単に知識を吸収するのではなく、その知識を活用して成果を得る力を育成する教育内容に進化させることが望まれている。 18年度に引き続き、実習授業では、学生自らの車両を使用してその整備技術を向上させることに取組み、加えて工学科においては、研究実験型の授業内容を取入れ履修促進を図ったが、工学科学生の多くが、基礎力が乏しく研究手法の構築ができなかった。あらためて2年次までの育成内容の重要性を感じ、1，2学年での履修内容を確認し、不足部分を補う取組が必要。	a.学びの樹 b.授業計画書 c.3つのポリシー d.自主性・主体性の取組み振返り

[redacted]

点検小項目	評価	ア　現状認識・評価等	ウ　課題とその解決方向	参考資料
3-3 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	成績評価・認定、その先の進級、卒業の基準も学則、学ナビで明確にし、それに沿って運用している。	今後、授業が知識・技術の修得から、得たものを使って、課題を見出し、解を得る力に発展させたときに、どう評価していくのかが課題。より、力を目的に向けて発展させている事に焦点をあてて評価していく事が必要。	a. 学則 b. 学ナビ

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-4 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか。	4	すべての法定教科は目標とする資格(国家一級、国家二級)に繋がるものであり、年間カリキュラムに織り込んで明確に定められている。直前の国家資格対策もカリキュラムに織り込んでいる。 各学年の中で、上記カリキュラムで履修した内容の理解度確認を定期的に統一試験として実施。併せて直前の国家試験対策でサポートしている。 又、技能としては日産自動車の社内資格基準に従って、カリキュラムを構成することで、技能レベルの目標を明確化している。 スポーツメカニクス科では、更に、レースのライセンスや、車両整備上櫃王な溶接技術などをカリキュラム上、明確化している。	特になし	a.資格取得計画 b.統一試験 c.19年度教育部活動計画

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-5 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	3	必要な資格、一定の専門性を有した教員を常勤で確保。専門性や、教授力向上の為の、力量の把握や、教育にも力を入れている。現在、国家一級資格保有者は、教員の76.1%。日産整備士資格2級は90.4%であり、日産整備士資格1級は3名の教員が取得している。 新技術や業界の新しい仕組み等を学ぶ研修は、日産自動車主催の各種研修に定期的に派遣している。また、企画支援部主催のコーチング等各研修への参加、および外部である専修学校教員研修会での各種研修の受講を実施して、教員として様々な視点からの力量向上を図っている。	19年度国家一級を1名が取得。20年度取得目標は4名の教員である。しかしながら4名の教員は複数回受験をしており、前もっての勉強内容に工夫が必要。 日産校内、外部での研修は計画的に行なっており、19年度も計画的に受講を進めることができた。20年度実施に当たっては新型コロナの影響を受ける研修等について注視して受講を進める。	a.教員資格、研修受講一覧

基準4　学修成果

[redacted]

点検小項目	評価	ア　現状認識・評価等	ウ　課題とその解決方向	参考資料
4-1 就職率の向上が図られているか	4	就職（求職）対象者全員に対して、就職を斡旋し、毎年就職率100%（就職希望者が分母）の実績を上げている。 就職対象者全員の受験状況ならびに内定までの状況をリアルタイムに把握しつ100%を目指す体制を敷いている。特に、留学生の増加に伴い、希望企業への100%就職内定を目指し、早期に個別指導を行っている。（20年3月末までに留学生16/21内定）	留学生の増加が見込まれる中、留学生側の面接等への準備と併せ、求人企業への留学生のアピールを強化することが必要。	a.20年4月入社就職進捗表 b.19年度就職授業スケジュール

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
4-2 資格・免許取得率の向上が図られているか	3	日産5校全体で国家一級二級の指導計画を共有し、指導計画進行中も継続して情報を共有して受験勉強を進める。また、一級、二級とも受験後には各日産校の担当間で振り返りが行われ合格率の向上を図っている。 19年度は、国家一級が、93.6%と業界上位の合格率に高める事が出来た半面、国家二級では、長年の全員合格を逃し、3名の学生がガソリン、ディーゼル両方を落とす結果となった。内2名は学習を放棄する姿勢が要因、1名は留学生で日本語の問題。	・国家一級については、一養の平均合格率83.5%、一部の学校では100%と言う現状にあり、更に向上を目指し、課題の整理・対策を重ねていく。 ・国家二級については、左記の状況を踏まえ、日本人、留学生固有の課題の有無について早期に見極め、対応を取っていく。	a.国家資格取得計画 b.19年度教育部活動計画 c. 整備科横断会議受験特訓報告

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
4-3 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	企業アンケート（入社企業による卒業生の評価）、卒業生アンケートにて、卒業生全体の状況を把握している。 アンケート結果より、在学生にFBできる項目、内容については授業や担任からのアドバイス等で在学生の育成に反映している。	例年の課題は「お客様対応力」、「自発的行動力」に関して相対的に評価が低い事への、在校生への意識付けと改善。 引き続き、基本的な生活指導および主体的に取組ませる実習授業にて改善を図って行く。	a.企業アンケート b.卒業生アンケート

基準5　学生支援

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	3	教員（教育部）と就職担当（学務部）が連携し、学生の支援は円滑に行われている。（求人情報の取得から、教員・学生への展開はスムーズであり。企業別・個人別の進捗状況は、リアルタイムで確認されている。） 就職担当部署にて、校内で企業ガイダンスの実施（11月頃）。 企業情報の提供、企業訪問、会社説明会の展開も行っている。 クラス担任との学生個別面談（就職先企業選択など）・就職担当との個別面談（就職先企業の情報確認など）によるアドバイスを適宜行っている。 就職斡旋ばかりではなく、クラス担任・就職担当部署・外部講師により身だしなみ指導、履歴書の書き方から面接試験等のトレーニングまで実施し、体系的に就職教育、指導を行っている。	学生の就職意欲に差があるため、従来通り就職先選択の重要性など継続指導していく。また、個々の企業情報については個社から情報（USP）をいただき、活用しているが今後更に拡大が必要。 早期から就職意識の醸成を行っているが、販売会社での学生アルバイトなど更なる企業との接点開拓や夏休みの企業訪問は今後、検討したい。	a.就職マニアル b.就職活動計画 c.就職進捗表

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-2 退学率の低減が図られているか	3	・メンタルや学力、整備士志望意欲に問題のある入学生の数は増加傾向にあり、それに伴い、FY19の退学率は6．1%と年々上昇傾向し、優良な状況から脱しつつある。一層の低減活動に努める。 ・基本的な退学防止策 担任を中心として学年担当全体で課題のある学生を早期に見い出し、早期から対象学生に必要な対応を行ない、保護者との連携も欠かさない。 ・メンタル的な課題 メンタルの課題を抱える学生への対応として専門カウンセラーを学校に招き、役半日の時間、学生へのカウンセリングを行なっている。平均して1回に4名の学生の面談を実施している。	退学を抑制するため、校内のノウハウを整理共有して、各担任の対応を高いレベルにすると同時に、教員間、学年会議、運営会議と課題を共有して、個別学生への適切な対応策を講じていく。	a.退学率 b.19年度教育部活動計画

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-3 学生相談に対する体制は整備されているか	4	・各正副クラス担任が、学校側からの定期・不定期の学生面談を行っている。また、学生の相談にも応じている。 （教員に対しては研修を実施し、スキルアップの機会を設けている。） ・最近のハラスメント対策等の必要性論議を受け、17年度より、学生相談窓口を開設し、いつでもメールでの相談を受けられる体制としている。 ・メンタルのカウンセラーは定期（1回/月）の体制で実施している。	・メンタル等、の問題を抱える学生は、増加傾向にある。学生カウンセリングの増加対応については相談日を増やすなど、柔軟に対応している。今後も継続的な対応とする。	・学生相談窓口（主ハラスメント）案内 ・校内カウンセラー　案内

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-4 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	3	・学生支援機構の奨学金制度、特待生による学費減免制度、遠隔地学生の寮費の減免制度、その他資金融資制度を設けており、希望者は吸収できるキャパを持つ。 ・分納制度をFY16より実施。FY19は96名（29.4%）の希望者があった。 ・20年度からリアライズ奨学金制度（日産校特有の給付型奨学金）がスタートし、20年入学予定の4名が対象となっている。 ・20年度から、高等教育修学支援制度が導入されるため、申し込みの受け付け等を行っている。	・分納制度のニーズも高く、継続して対応していきたい。 ・販社奨学金のスキームは整備されてきているので、今後は制度利用者を増やす方策を検討していく。 ・FY20からスタートする高等教育修学支援制度、リアライズ奨学金といった高額の給付制度の周知と拡大を図り、支援の充実を図る。	募集要項（奨学金/分納制度）

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-5 保護者との連携体制を構築しているか。	4	保護者の出席率の高い入学式にて学校の姿勢について、周知すると同時に、相談会を催している。 突発的な相談については主に担任が保護者に電話で行なっている。また、18年度からは、成績通知表とは別に、成績面に加え、生活面についても記述した連絡表を保護者に送付している。年3回。	生活面に問題のある学生の保護者にその旨記述した連絡表を送ることに保護者からは賛同の声が多い、しかしながら当の学生本人の改善を促すまでには至っていない。 改めて、常からの保護者との連携に力を入れる事とする。 ・20年度から、保護者への連絡網として、eメール形式の媒体を設ける。これにより従来のHPより、より迅速な情報提供を行う事が可能になる。	a.学生カルテ b.保護者連絡表

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-6 卒業生への支援体制を構築しているか。	3	企業の採用担当者から、随時、直近の卒業生の現況確認を行い、問題があれば、個別にサポートをしている。 また、制度は存在しないが、離職してしまった卒業生から相談があれば、随時対応している。（就職先の相談など）	支援体制を継続していく。	

基準6　教育環境

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか。	3	カリキュラム対応/新車・新技術対応ができるよう年々の整備・更新している。教材車両については、日産自動車から試作車両を中心とした教材車両の提供を受けられることとなった。 機器の整備については、専門業者による定期のメンテナンス、教員による実習後の復元の体制で維持している。	日産自動車から提供される試作車両は基本的に新型車両＝使用による劣化等の無い教材である。整備を学ぶ上では使用過程のあった車両も確保が必要である。 今後、必要数を整理し、予算配分の上、購入して行きたい。	設備投資計画表

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	・2年生-就職内定先企業研修・4年生-インターンシップ・2年生-　海外研修の実施を計画 ・一級のインターンは授業の一環ということもあり、多くの企業で一定のレベルの研修メニューが整備されており、評価システムもある。 ・海外研修旅行については、海外渡航の一般化、価格の廉価化、に伴い、団体での研修価値の相対的低下から、昨今、多くの学校が廃止し、日産校でも栃木校が最後となっている、	・整備科での内定者研修の内容は企業により、ばらつきも多く、引き続き、一定のレベルに収斂していただく活動を行っていく。 ・海外研修旅行は、左記の様な現状を踏まえ、2020年度の研修旅行がコロナ感染症の影響で中止になったことを踏まえ、廃止。	a.インターンシップ計画表（工学科） b.内定者研修計画書（整備科）

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-3 防災に対する組織体制はを整備し適切に運用しているか。	3	・火災に対する体制は整備されている。防災訓練を継続的に実施する事を重視して実行している。 ・自衛消防隊を組織し、毎年、学生・教職員の防災訓練を実施している。地震に備え保存水、非常食を防災倉庫に保有している。 ・学生寮においても、防災訓練を定期的に実施している。 ・交通安全講習会を損害保険会社に依頼して実施している。目先を変え自動車保険アジャスターを講師として安全講習を実施。 ＊ドライブレコーダの映像などのリアルな描写および、自動車保険アジャスターならではの視点での説明は、斬新で新鮮であり、今までにない有効な安全講習とできた。	・大規模災害（大地震）に対する備えが遅れている。（ロッカー等の固定、など） 現在、全ロッカー固定を計画し進行中。 ・寮学生の防災訓練参加率が低く、向上させるための方策が必要。 ・学生の交通安全指導は、定期的な継続が必要。 （本年度も損害保険会社から講師を招き実施予定。時期は冬季休み直前としたい）	a.防火訓練計画・要領 b.防災組織表 c.18年度交通安全講習会資料

基準7　学生の募集と受入れ

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-1 学生募集を適正、かつ効果的に行っているか。	3	年度計画を作成し、目標に対する諸活動を明確にして実施しているが、近年、目標を達成できていない。	①当面の方向：自動車整備士希望の高校生は減少傾向にあり、志望者の多い留学生での増員を目指す。 ②中長期的方向：一級自動車工学科を伸長させることが重要であり、当科の魅力度向上活動により、志望者の誘因を図る。 【方策】 ①日本人向け ・学内外への学内情報の情報発信の取組みの強化。 （HP、SNS、プレスリリース等） ・販売会社との連携による応募希望者の誘引活動強化。 （販社奨学金の拡大、販社と連携した説明会など募集活動） ・一級自動車工学科に魅力度向上活動（学内）とその成果のアピール（外部へ） ②留学生向け ・ガイダンスへの積極参加、日本語学校への働きかけによる留学生の誘引活動。 ・21年4月新設の「国際自動車整備科」のアピール	募集方針書

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-2 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	3	アドミッションポリシーを整理すると共に、それをもとに、AO入試、一般選考、推薦選考すべて、公平に合否判定を行っている。	・留学生が増加する中、優秀な留学生の獲得に向け、新たな入試制度（留学生AO入試、指定校入試）を開始。その基準についても、今後、運用状況を見つつ、整備をしていく。 ・高校生に対するAO入試については、21年度活動を見据えて、栃木専各の方針に沿って、実施時期を見直していく。	a.入試面接表　合否判定資料 b.指定校案内文書

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-3 経費内容に対応し、学納金を策定しているか。	4	妥当と認識している。 （教育内容、世間相場を考慮して改正をおこなっている）	特になし	募集要項

基準8　財務

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	長期の投資を見込んだ中期計画（18～22年）を立てて中期的な財務安定を目標に運営している。 学生募集の漸減により、年度の事業計画での計画修正（投資の圧縮など）で予定の収支を維持する状況にあるため、長期的な安定の為、募集の回復は喫緊の課題。	21/4月の募集から、国際自動車整備科（3年課程）を立ち上げ、留学生を大きく増員する計画としている。 コロナ感染症拡大の影響で、募集活動のスタートが遅れているが、今後、挽回を図り、計画を完遂したい。	a.資金収支計算書 b.事業活動収支計算書 c.貸借対照表

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-2 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。	3	教育を円滑に進めていくために必要な資源を確保し予算を策定しており、妥当なものになっていると判断している。しかし、決められた予算内で、いい教材を確保していく為には、より長期的に検討した計画が必要となっている。	20年度には、中期計画に反映するレベルで、今後の教材・機材の在り方［実践的整備や、高度整備のニーズを踏まえ、再度、どのような教材車両、機器類が必要か）を検討する。	※以下は、1-3の資料と同じ a. 中期計画（2018～2022年） b. FY20活動計画/FY20大規模投資計画

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-3 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を行っているか。	3	適正に行われている。 （公認会計士/監事が監査。5月の理事会評議員会で報告。） FY17より経理内部監査を実施。組織の経費の運用/意思決定の妥当性を中心に適性をチェックしている。	今後、更に広い領域で、学校運営の適正さを見ていく為に監査制度の充実を検討していく（経営企画部を軸に）	監査報告書

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-4 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	4	HPに公開（毎年7月に更新） 公開内容～資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録・監査報告書	特になし	財務情報（HP）

基準9　法令等の遵守

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っているか。	3	本校は、学校教育法、専修学校設置基準、一種養成施設認定規則、などの該当する法令には準拠しており、適正な運営が図られている（所轄の官庁の監査で確認） 学生の法令順守という意味では、近年社会問題にもなっている車両の違法改造、道交法の順守について、また、未成年の飲酒、喫煙についても都度、注意喚起を行っている。 ハラスメントについては、防止方針を設け、教職員・学生の双方に周知するとともに、定期的な学生アンケートの実施や、第三者的に申告を受ける窓口・それに対応する委員会制度を校内に設けるなど、発生の際に備えている。 情報のセキュリティや、個人情報保護については、システム的な保護、教職員への周知の両面で徹底してきており、トラブルは発生していない。一方、学生に関しても、啓蒙活動を継続しており、SNSでの学生のトラブルは発生していない。 19年度末から、コロナウィルス感染症拡大への対応に追われている。行政の指示・ガイドラインを前提に学校運営を進めている。	各種法令順守や、ハラスメント防止、情報セキュリティの保護などは、啓蒙を継続し続けるものであり、その上で発生する問題へは、各種対処方針、又、契約弁護士の助言に基づき対応する事として運用している。 20年度当面の学校運営の最大の課題は、コロナウィルス感染症対応であり、行政の指示・ガイドライン等を前提に近隣府県の情報等も鑑み、意思決定していく。	国土交通省監査関係書類 イントラ「基準・ルール早わかり」 ※各種規程に運用条件が盛り込まれている

[redacted]

点検小項目	評価	ア　現状認識・評価等	ウ　課題とその解決方向	参考資料
9-2 職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか。	3	全科、職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っている。	スポーツメカニクス科が、3年課程に変わったことで、職業実践専門課程への新規申請が必要となっており、20年度に申請を行う。	職業実践専門課程申請関係書類 ※事前には、HP情報公開で確認方 https://www.nissan-gakuen.ac.jp/school/kyoto/disclosure.html

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-3 学校が保有する個人情報に関する対策を実施しているか。	3	・ハード的には、統一の教務・学務のシステムでは、適切なアクセス権が設定され、不必要なデータへのアクセスが出来ないようになっている。また、IPフォンの導入とクラウド電話帳の活用により、教員の個人端末（スマホ）への学生情報保存をしないなどの対策が講じられている。 ・ソフト的には、教職員に対し、情報セキュリティや、個人情報保護に関する教育を通じ、情報の重要性、扱いの注意を徹底している。 ・外部に対しても、学生・保護者を含め、情報管理方針を明示し、対応を明確にしている。 ・学生に対してもSNSの危険性などの啓発活動により、大きなトラブルは無い。	学生のSNS関連のトラブルのリスクの存在は変わっていないが、啓蒙教育及び注意喚起を継続していくことで、問題の発生を防ぎたい。	a.個人情報管理方針(HP) b.人事規定（機密保持） c.情報セキュリティスタンダード d.学生個人情報の取扱に関する同意書

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-4 自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか。	4	学校の自己点検は2013年度から、学校関係者評価は2014年から実施している。	20年度は、コロナウィルス感染症拡大の影響があり、自己点検が6月中旬に完了予定。学校関係者委員会が7月上旬開催に例年より若干遅れている。終了後、年度の活動に意見反映を行う。	自己点検結果（HP） 学校関係者評価結果（HP） ※下記、HP情報公開で確認方。 http://www.nissan-gakuen.ac.jp/school/kyoto/disclosure.html

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-5 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	4	教育情報についても学則・カリキュラム・シラバス・資格取得実績・就職率等、2014年度からHPにて公開している。	特になし（7月には、FY19活動の振り返り含め、情報を公開する）	HP（学則・カリキュラム・シラバス等） ※下記、HP情報公開で確認方。 http://www.nissan-gakuen.ac.jp/school/kyoto/disclosure.html

基準10　社会貢献・地域貢献

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
10-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	以下の様に、各関連に対し、各種貢献を行っている。 ①中学：地元中学の電気の授業を一級工学科4年が実施。 ②高校 ：職業教育への支援活動（学校見学）、模擬授業 ③企業 ：地元企業への教育会場提供、整備技術大会への人的・物的支援 ④関係団体 ：整備振興会開催の整備技術大会の会場提供、国家試験会場の提供 ⑤地域 ：町の祭り、駅伝、チャレンジデー等への参加	さらに高校・企業・団体・地元地域との関わりを深くすることで、地域活動への参画を増やし、社会性を校内に取り込み教育の質を向上することに繋げていく。	

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
10-2-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	3	地元警察の要請を受けて、学生が交通安全リーダー（交通安全の啓蒙活動等）に参加している。 校内で、地元を中心に要請の来るボランティアについて展開し、参加を奨励している。	ボランティア活動への参加等、状況の把握や、活動の拡大への支援については、まだこれからの課題。	

基準11　国際交流【必要に応じて】

[redacted]

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
11-1 国際交流活動を行っているか。	3	・2年次の海外研修は、米国の整備学校、販社等で、米国の整備技術の講習、体験、また、整備業界の現状に触れ、国際的な視野を広げる場としてきたが、海外渡航の一般化、価格の廉価化、に伴い、団体での研修価値の相対的低下から、昨今、多くの学校が廃止し、日産校でも栃木校が最後となっている、	・海外研修旅行は、左記の様な現状を踏まえ、2020年度の研修旅行がコロナ感染症の影響で中止になったことを踏まえ、廃止。	海外交流画像